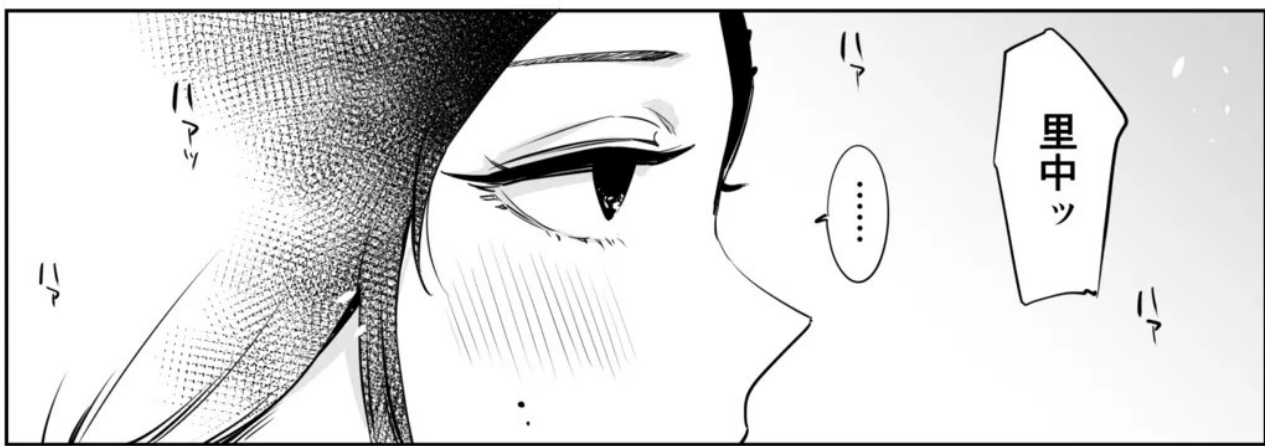


里中尚子と水島先生

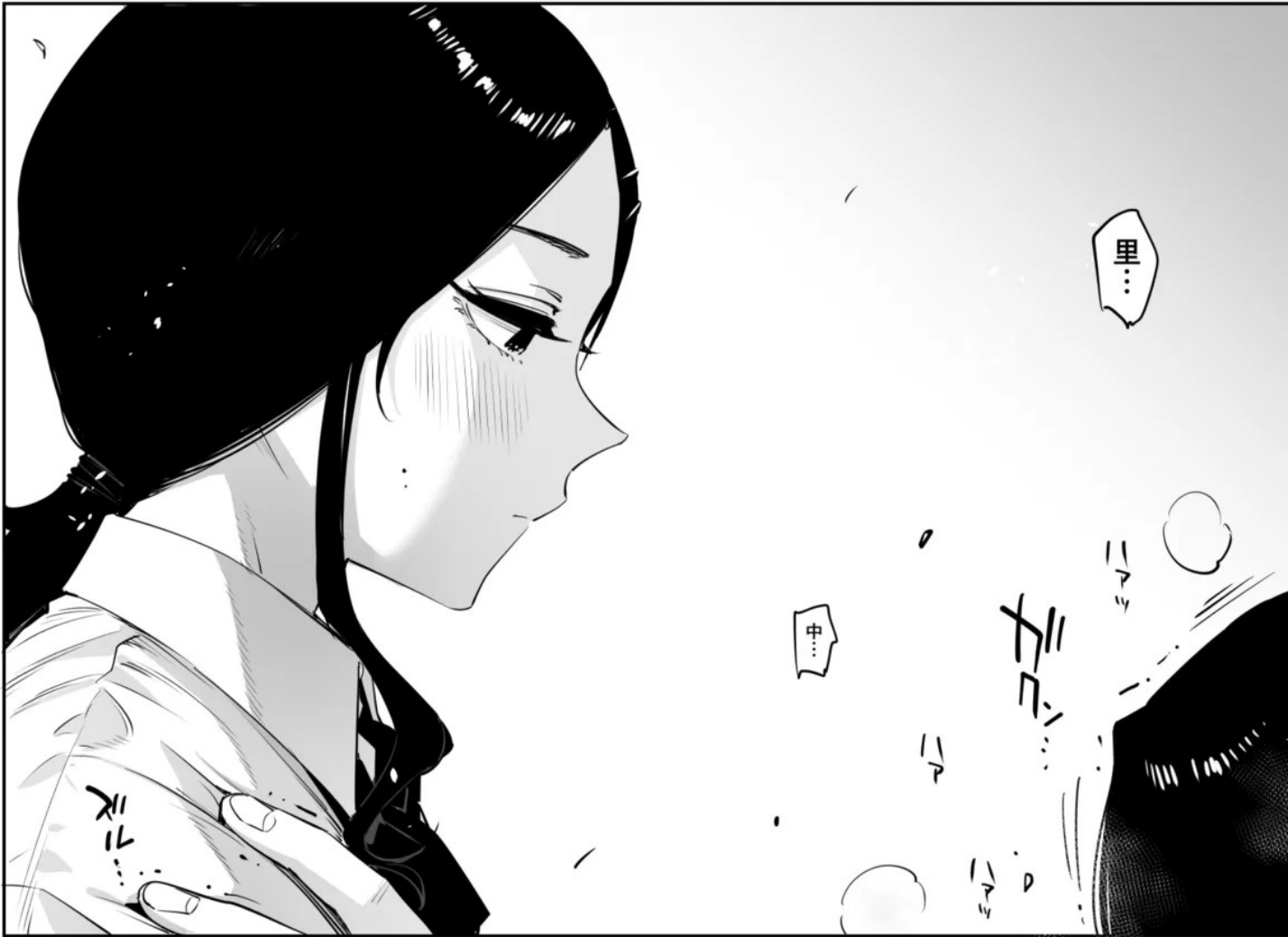
成人向





03







先生…

たくさん出ましたね

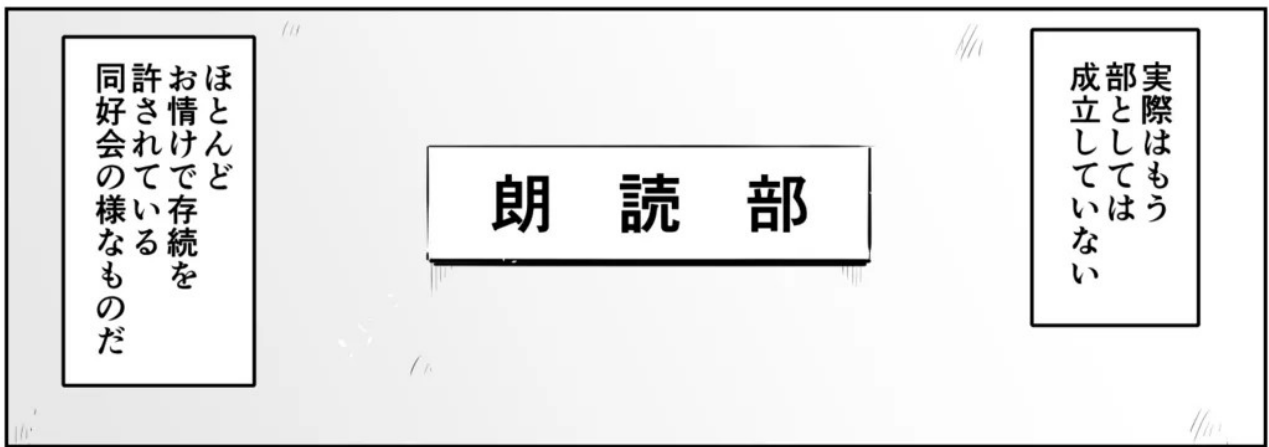
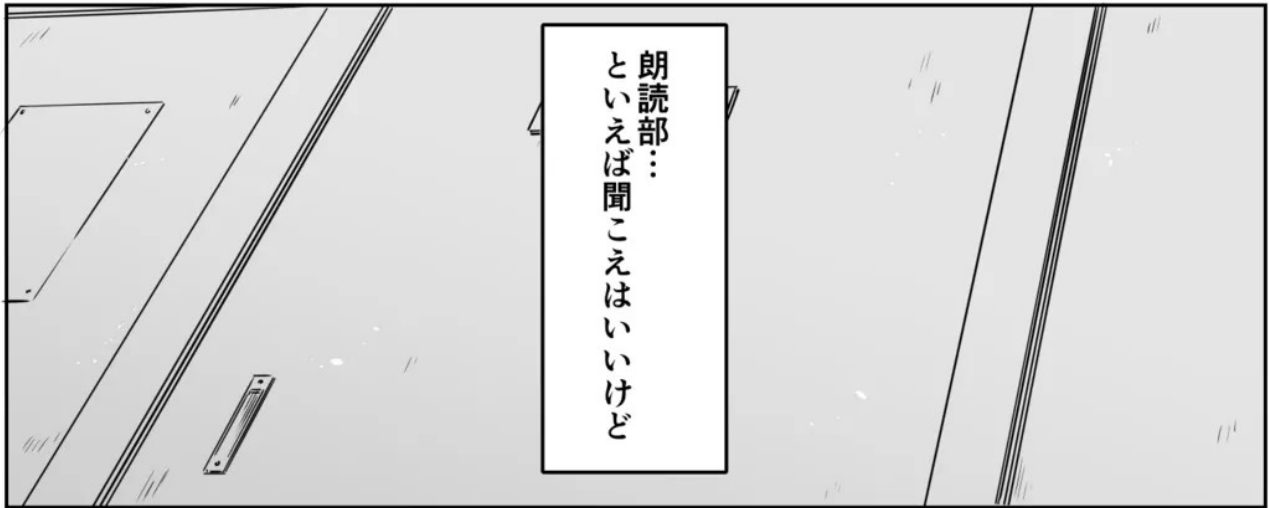


06



里中尚子と水島先生

ED









水島先生はこの狭い部室で
女子生徒と二人きりに
なるという事を気にしてか

いつも頃合いを見て退室し
私が帰った後に戻ってきては
部室の戸締りをして帰る

私に興味も何も無いのかと
最初は思ったけれど

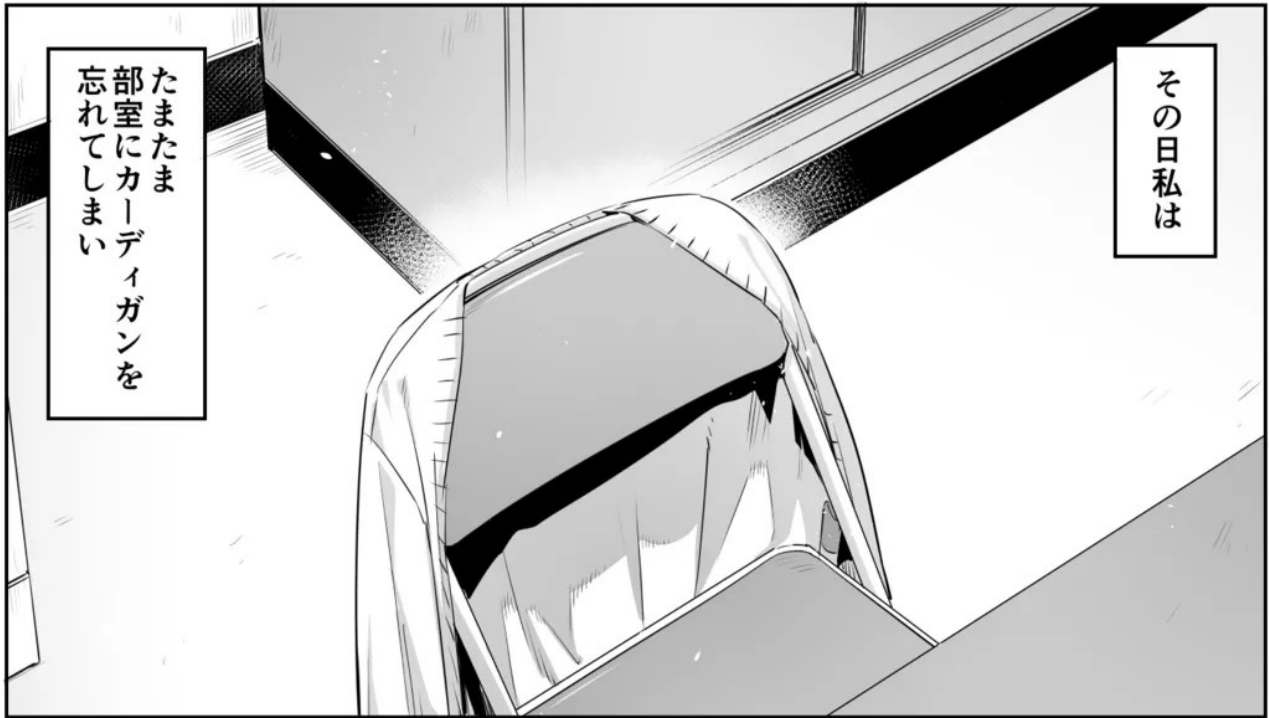


そういう行動を
取っている事に気づいた時

逆に
本当はものすごく
意識してるのではと
思った

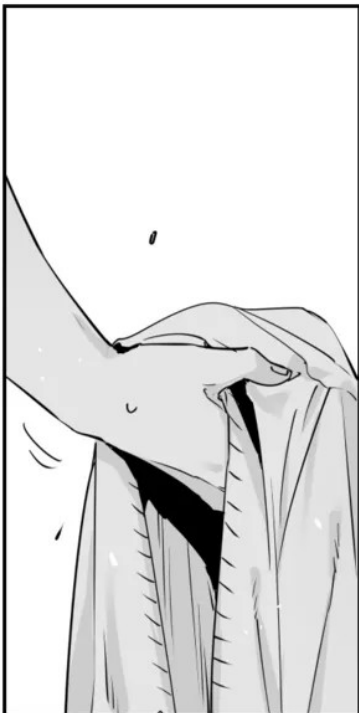


もしかしたら…
と思ったのだ



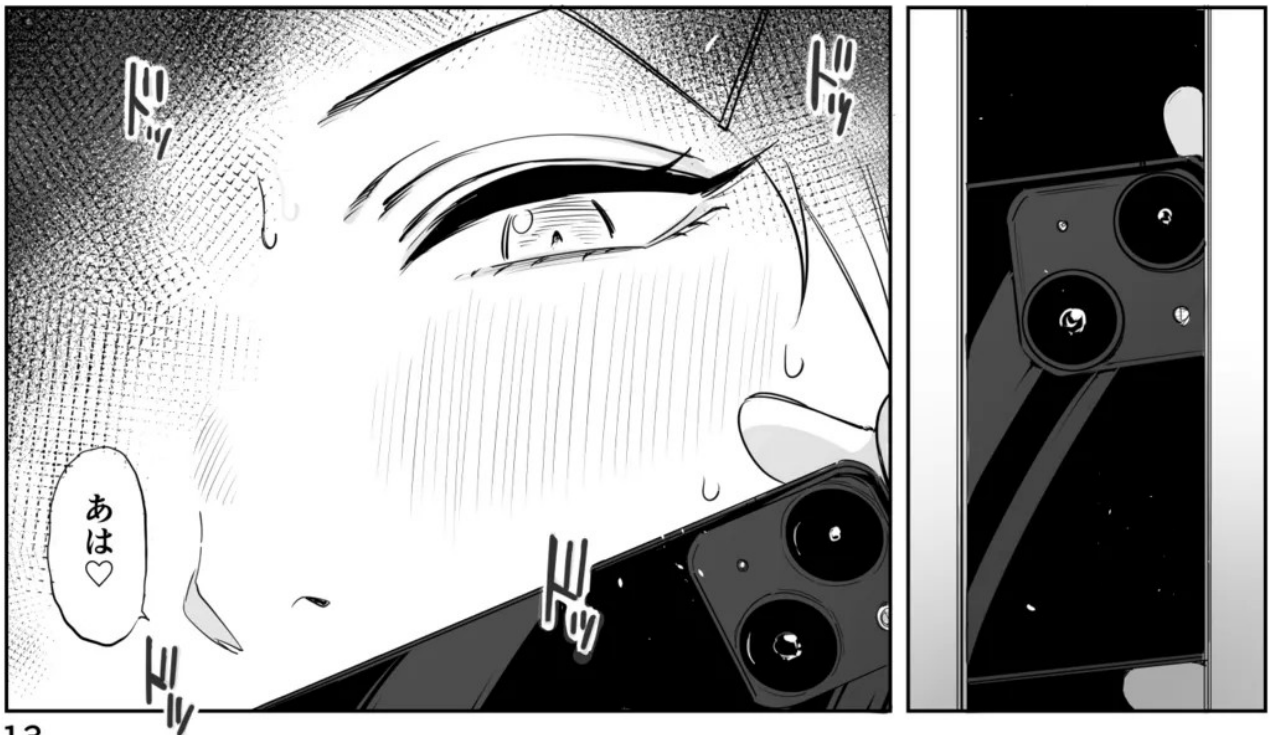
その日は

たまたま
部室にカーディガンを
忘れてしまい



ずいぶん経った後

たまたま
部室に取りに戻った――







翌日
何事もなかったように
カーディガンは
椅子にかかっていた





私は先生が大好きなのだ

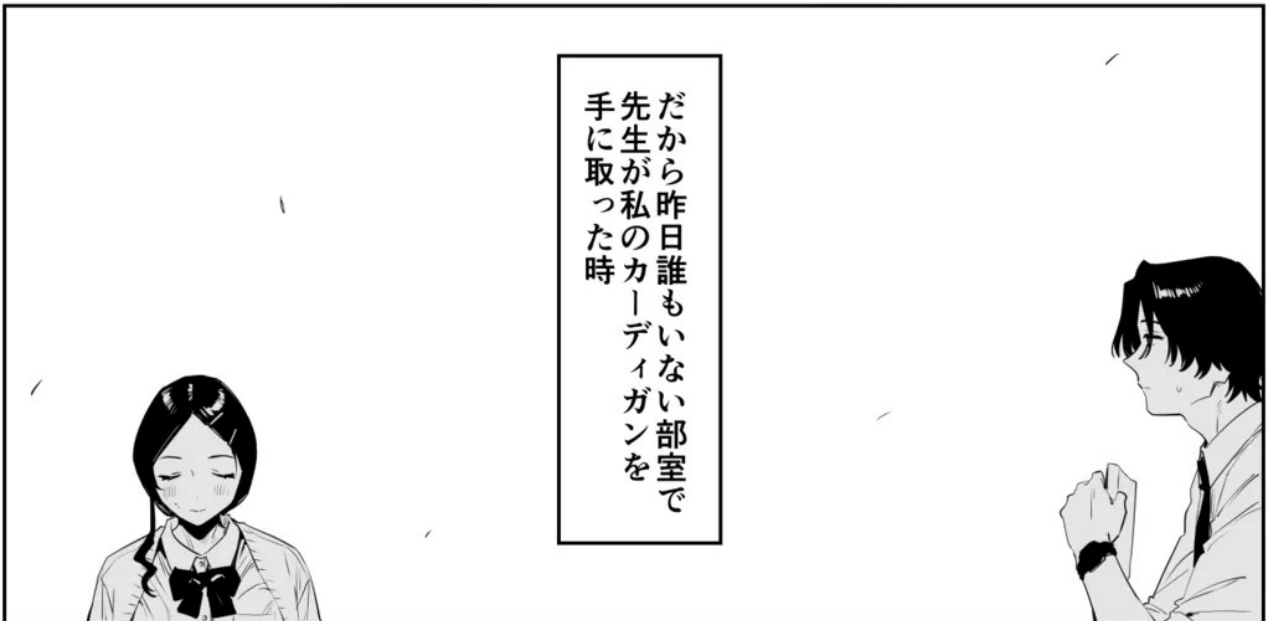


勘違いして
ほしくないのだが
？



私などには
全く興味がないのだと
ずっと思っていたから…

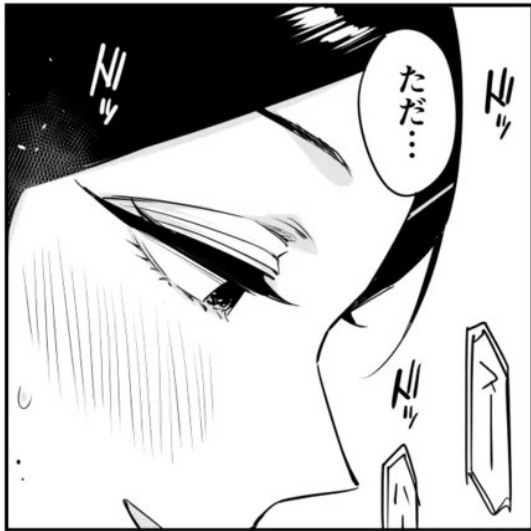
一年の時に入部して
三年になって二人きりの
部になってから今まで



だから昨日誰もいない部室で
先生が私のカーディガンを
手に取った時







ただ…



先生 そんなに怖がらないでください

私 別に怒ってるとかそういう話をしたい訳じゃないんです



実は私も先生にずっと言いにくかったお願いが…

だから先生がもしそのお願いに協力してくれたりしたら

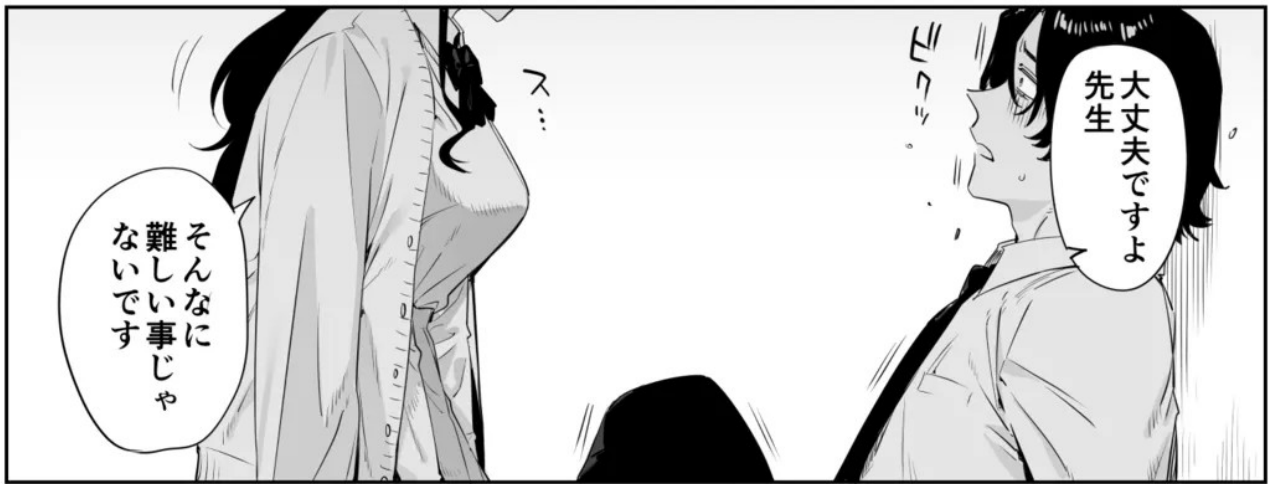


どうですか…?

せんせ…



嬉しいなあ…なんて





先生？
私 少しいやらしい
描写のある小説を
読んだりするんです

そういう
小説を読んでいる時
男性の喘ぎ声の
シーンがあつたりして



お…俺に何を…
お願いって…



そういう時
先生の声で聞きたいと
ずっと…思ってたんです

この部に入つて
先生の声を聞いた時から
ずっと…です…



お願い…
聞いてくれますか？



私 先生が
情けない声で
喘ぎながら
射精するところを

見たいんです…







本当は先生にお礼を言いたいくらいなのだ

。。。
そうだし
きちんと条件を
決めておきましょう

先生が後で
不安になっては
困りますから

入部して以来
こんな機会が自分に巡って
来るなんて想いもしなかった



それが今叶おうとしている

明日から一日一回
先生の射精を10回
見せてください

出すときは
私が手で
受け止めます

それだけで感謝こそあれど
私にとって先生の謝罪など
本来全く必要の無いものだ…



むしろ先生に謝罪しなければ
いけないのは私の方だ

それと私に
触れるのは禁止です

ただし
私の右肩だけ
掴んで支えにすることは
良しとします
果てると脱力すると
書かれていますから

10回我慢すれば良い…
先生はそう覚悟を
決めたはずであるが…

我慢しきれず他の場所に
触れたりした場合は
今まで話したことは全て
無効とし





里中尚子

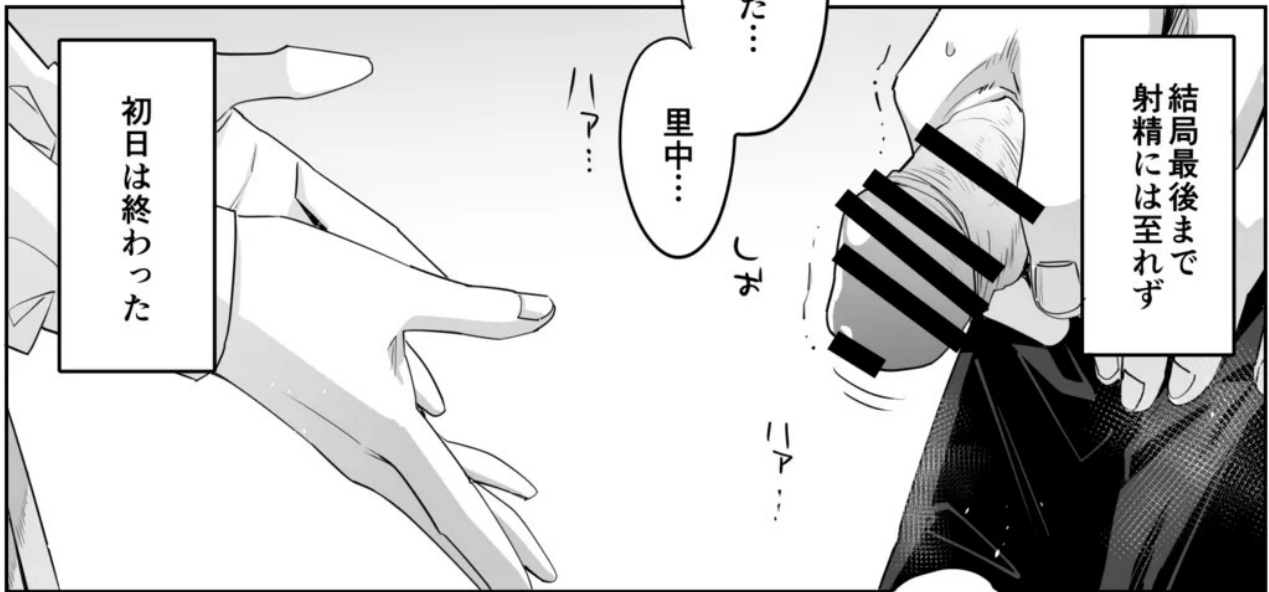
水島先生

—
—
**目
目**
—



だが 緊張していたのか

翌日
先生は約束を守り部屋に来た
逃げたりはしなかった



初日は終わった

ダメだ…
里中…

結局最後まで
射精には至れず



うう…

今日の分は
ノーカンですね
先生

先生は最初に条件に出し
触ってもいいとした肩にも
触れて来ることは無かった

……

今日は
帰ります…

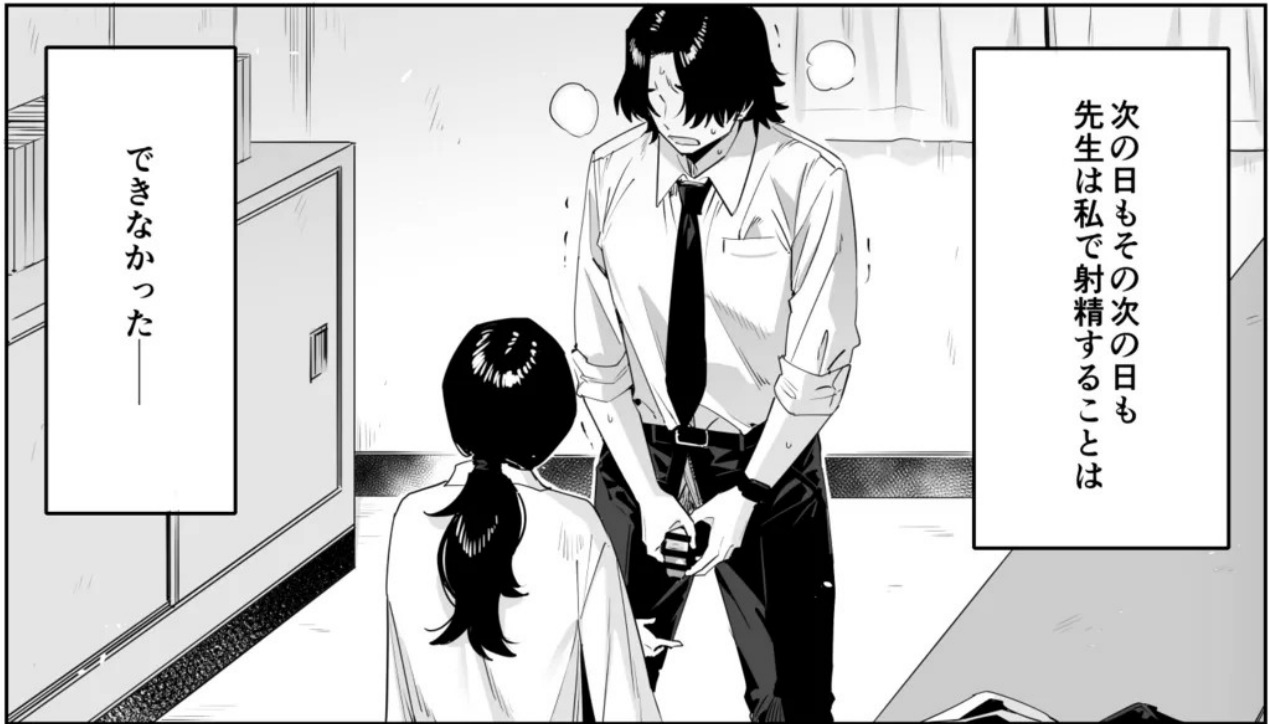
また明日
よろしく
お願いしますね

それともそういうもの
なのだろうか…
私は少し
ショックを受けていた

先生が我慢しきれず
私を襲ってくるまでは
簡単では無いだろうと
覚悟の上だったが

少なくとも
私に興奮する様を
見る事くらいは…と
思っていたので
まさか勃起すら
してもらえ無いとは…

ガッガッ…



できなかった

次の日もその次の日も
先生は私で射精することは

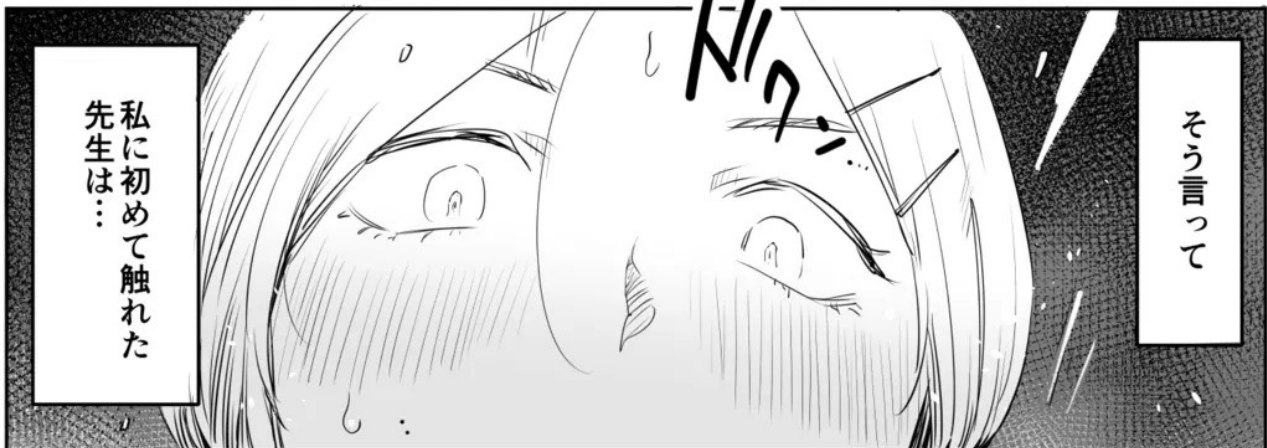


先生

これじゃいつまでも
終わりませんよ？



正直少しばかり焦りを感じていた
実は私の思い違いだったのかと
先生の行動にはそういう意味は
含まれていなかったのか…と





水島先生の手形：



昨日やっとな回と思うと
十回というのは確かに
少し酷かもしれないね

—
五日目
—

先生なので
私考えたんです

今日からは私も少し
お手伝い…しますね

私などのでは
嬉しくないかもしれ
ませんが…





先生が私のどこを気に入ったのか
見当もつかないが…
先生は私に触れることで
近づくことで自分が抑えられなく
なる事が怖かったのかもしれない

かといって離れるために
部を解散することもできず…



私と同じで先生もまた
こんなチャンスが巡ってくるなんて
思いもよらなかったのかもしれない

今日はずいぶん
早かったですね…

ずっと叶うはずがないと
私に知られないよう
悟られないよう
胸に秘めておくつもり
だったのだろう…

それでも魔が差してしまった…
あのカーデイガンを
手に取ってしまった…

先生？

…ツ

ああ先生…

まだ8回あるのだ…私は今すぐ襲ってほしいと口を滑らせないよう

我慢するのが精一杯だった—

とっても素敵な

こえ
鳴き声でした…

ね〜ね〜

里中は…

部内でもあまり
目立たない生徒だった—

せんせ〜

朗 読 部





ほらほら
席ついて…

はいはい

へーい

…



一年生だからと
言うのもあるのか
他の部員と一緒に
騒いだりせず

普段からあまり
感情を表に出したり
しない…



さ…里中

悪かったな…その
今は始めるから…

さーウチらが
わるいめ

え…いえ

私は別に…

サンキュー



…

チンメン…

それでも妙に
気になる生徒で

じゃあ

里中から
順番に読もうか

ハイ

先生も
入ってわー

はい…

俺は

本を読み上げる時
普段あまり聞けない里中の
凛として透き通るようでありながら
柔らかく優しい声が

好きだった—



少なくとも俺の中では
そう言う生徒だった

今後一生
私の言う事を
聞いてもらいます

いいですか？
先生

里中が今まで見た事の
無い様な感情的な顔をした



あの日までは

...



かみき
ほじくヒニうなる

最近は順調ですね

先生

— 八 日 目 —

動画を消す約束まで

あと5回ですよ



人間とは
欲深い生き物だ...



先生の穏やかで
優しい声が好きだった

ただそれを
一番遠くからで
あったとしても

先生
今日もう少し



聞いていられるだけで
良かったはずなのに...

お手伝い
しますね...

私は二人だけの秘密
という言葉にかこつけて

先生の…

お役に
立てれば

自分でもどンドン歯止めが
きかなくなっていた

いいのですが…



それに伴って
先生の距離は段々

近くなり…



あっ…
だめだ…

里中…ッ

先生が日に日に
我慢の限界にきている
のは明らかだった



射精までのスピードは
どんどん早くなっていた

里中…
出…そうだ

はい
いつでも
いいですよ



アノ...

アノ...

アノ...

アノ...

アノ...

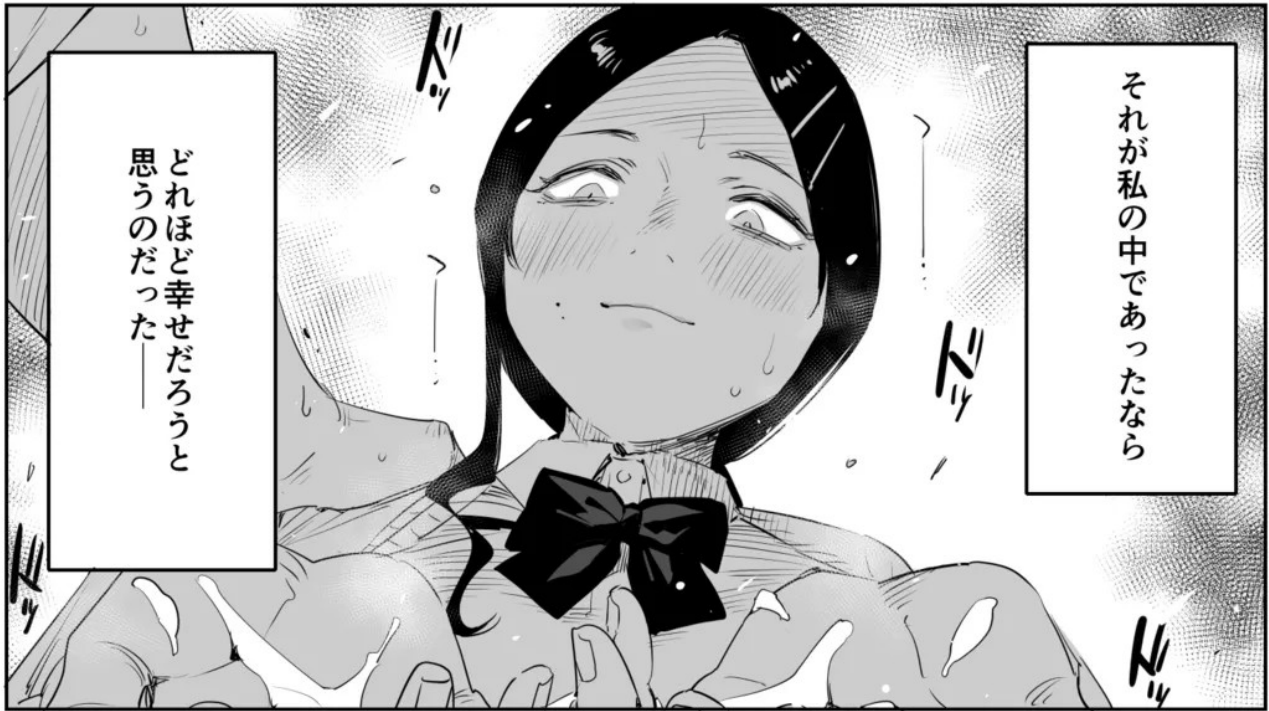
アノ...

アノ...

ああ先生...

先生が果てるたび

アノ...



どれほど幸せだろうと
思うのだった

それが私の中であつたなら



でもそれは決して
私から口にしてはならない



私は既にそう思うまでに
なつてしまったのだ...









大川文実

正直なところ
私たちはもうほとんど

今日は少し
疲れているので

椅子に座って
失礼しますね

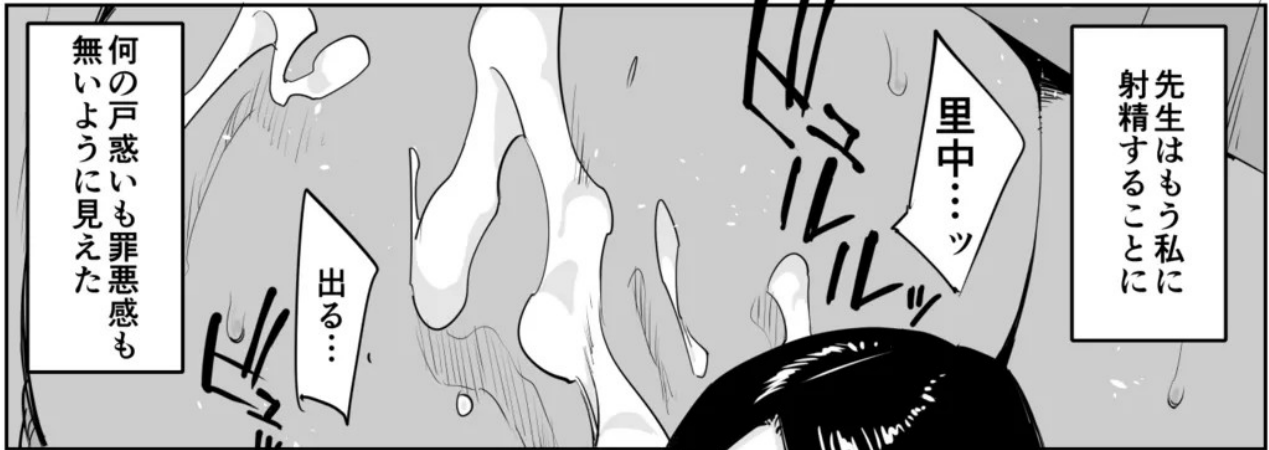
性行為のための
前戯をしているような
ものだった



お互い決定的な事を
口にする事は無いが

こんなもの…
少しでも上に
向けられたら…

実際はギリギリの所で
踏みとどまっているに
過ぎなかった



先生はもう私に
射精することに

里中…ッ

出る…

何の戸惑いも罪悪感も
無いように見えた



それは初めの頃からはとても
想像できないほどだ

毎回
手では

先生も飽きてしまう
でしょうから

でも…

だからこそ…

だからって

こんなに出すなんて
余程お気に召した
ようですね…

先生
♡

こんなことにならない限り
先生が秘めていた気持ちは
明るみにならなかつたであろう事
そうならない様 ずっと先生は
自分を律し続けていたという事…

今日が終われば

最終日

全てが
無かった事になります

そう必死に抑えてきた上で
つい出来心で私のカーデイガンに
触れてしまった事

57



何も無かった
ただの顧問と部員に
戻るので

その上で
とっくに私を押し倒したいという
気持ちで限界な癖に
肩にしか触れてはならないという
約束を律儀に守り続けている事



動画を消し
私たちの間には何も
ありませんでした

さあ
始めましょうか

私はその一つ一つに
気づくにつれ

先生を最初よりもずっと
愛おしく思うようにな
っていた

げ

先生…

今日で
最後ですから

先生が
いけないのですよ…

特別大サービス
ですよ…先生



こんな...

あ...
里中...



...あ...

あ...

私と二人きりになった時
部を解散すればよかった

里中ッ
俺は...ッ



すまんッ

あッ



私がつけ入る隙など
作らなければよかった

私に気を使って
部屋を出ていく事など
しななければよかった



里中ツ！



すまない！
すまない……ツ

置き忘れたカーディガンなど
触れなければよかった

里中ツ
すまん……



許してくれ……ツ



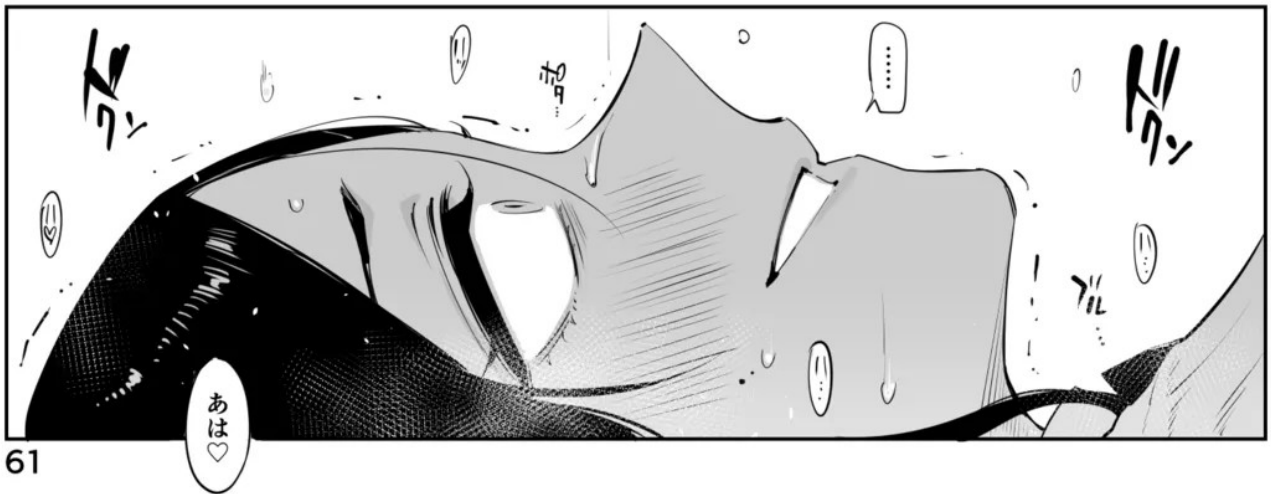
私にそんな情けない声を聞かせなければよかった

女...女...女...

女...女...女...

母...

母...



あは♡



私にそんな顔を
見せなければ
よかった



触れ：
ましたね：

先生
右肩：以外に



かまわない：

約束どお
…ない：



残念ですね

今日で全て
終わって解放される
はずだったのに：



奴隷にでも…
何でも受け入れる…

一生 里中の
いいなりにでも



とても許される事
じゃないのは
わかってる…

けど
もう里中無しじゃ…



俺は…



それよりも
里中と何も無かった
事になる方が

俺には…ずっと



奴隷だなんて
物騒ですね…

一生言う事を
聞いてもらうとは
言いましたが

そんな事は
言いませんよ



やですよ
先生



こんなことを今さら
言ったところで
信じてもらえないかも
しれません…



先生がそう言って
くれた時点で
私の望みは叶った様な
ものです

私が望むことは
先生が私だけのものに
なる事でしたので



先生？


これは
3年越しの純愛ですよ






私の中に果てたのを皮切りに

先生が私を求める勢いは
どんどん増していき



本当はこんなにも
情熱的な人だったのだと

朦朧とする意識の中で



私はひそかに喜びを
感じていた――



「先生が我を忘れる程
私で気持ちよくなっている」



その事実だけで
私はこれ以上無い程満足していた



初めての性行為は
痛みを感じながらも
絶頂に達するという様な

本で読み夜な夜な
夢想した程よいものでは
決して無かったが

まだこんなに
出るものなのですか

こんな味
私に性行為など
覚えさせなければよかった

口におさまり
きりませんでした

まだまだ収まりそうに
無い顔をしていますね

良いですよ
気のすむまで…

私から離れよう
などと思わないで
下さいね…

先生…



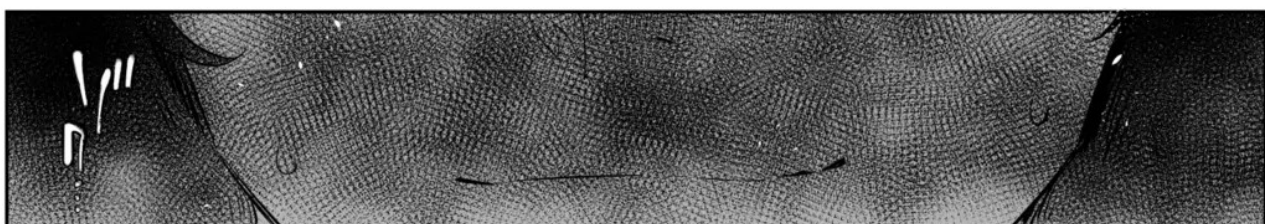


始めましょうか

さあ



先生？







これがいつか
私の中に入ってくるのかと思うと
胸の高鳴りを抑えきれず

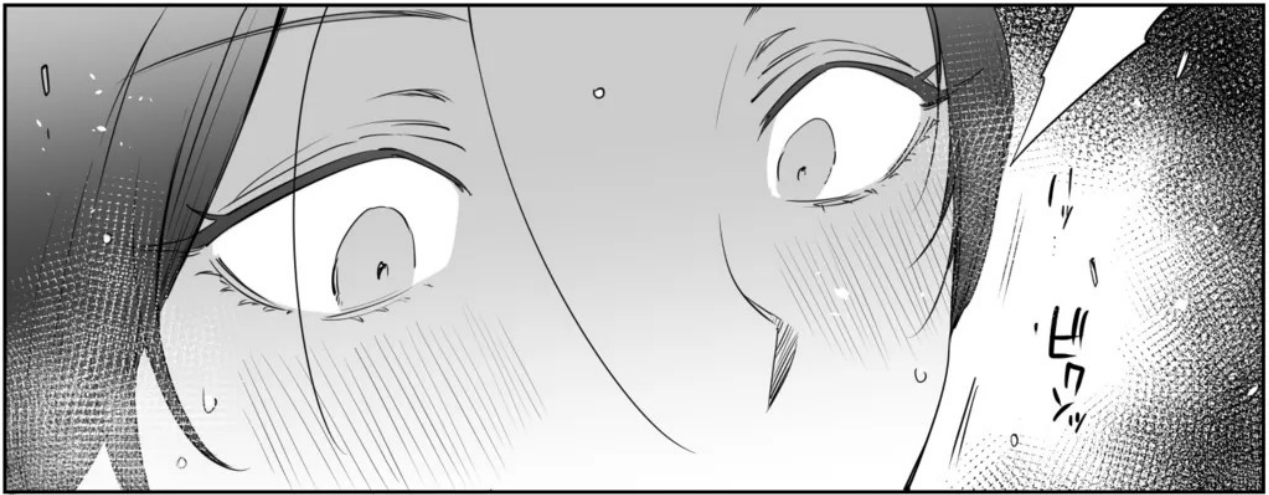
っふ...



場所も弁えず
無意識のうちに

手が伸びていた...

ぬ...





先生の性器でなくてはならないのだ…



ああ…
どうか…

ユラユラ

ユラユラ

ユラユラ…



先生が早く私を襲ってくださいますように

ああ…どうか

ユラ

お疲れ様ですEDです。

今回はエロ漫画です。

いにエロ！という

「エロゲが好きだけどエロゲを自分で作れないので漫画でエロゲを表現する漫画」
を描いてて、

現在はそれを描きながらエロ漫画を交互に描くという事をやっています。

いにエロに関してはしゃべることが沢山あるんですが、
今回の漫画には特に言う事があまりないです。

しいて言えば久しぶりになんというんだろうな、

自分のただただ描きたいように描いた。みたいな感じです。

いにエロに限らず、普段の本ってやっぱりエンタメというか

読者をちゃんと意識して描いてる感じがあるんですが、

今回のこのさとやんの漫画はあんまりそういうのを意識せず描きました。

そのせいもあってかもとは支援サイトでラフ漫画として描いてたもので、

原稿を作るにあたり殆ど全部描き直しくらいに手を入れたのですが、

描いてる最中いや この漫画俺の好みすぎるな～って感じでした。

俺の好みすぎる漫画だ…というのは自分で描いてて実はなかなか無いので。

読者に対してはどっちがいいのかわからないですが、

エンタメをやりたいという気持ちで普段漫画を描いて発表してるけど、

こういうのもたまにはいいのかなという感じです。

普段描いてるようなラブコメとも言えないし ジャンルで言えば俺(ED)かもしれません。

ジャンル 俺 でよろしくお願いします。

気に入ってもらえたら嬉しいです。

それではまた機会がありましたら…。

毎回あとがきに近況をかくと死んでしまうのですか？

みたいなあとがきになってしまうので今回は敢えて書きません。

皆様も体に気を付けてどうか健やかに過ごしてください。

ED

里中尚子と水島先生

ED

